

弊社装具（^{特許}第5185458号）によるO脚矯正

1. O脚の矯正には、押しピース（パッド）が必要です。
2. O脚の度合が大きくなる（FTAで7°以上大きくなる）と装具の補強材（フレーム）を曲げる必要性が生じます。
3. 補強材（フレーム）を曲げる場合は、型紙を作成願います。

弁理士・工学博士 望月孝道

〒658-0072

神戸市東灘区岡本1丁目5-14 第2伸幸ビル3F

望月特許商標事務所

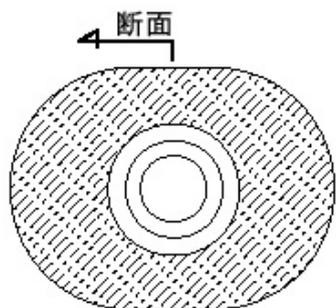
TEL 078-435-5577 FAX 078-435-5594

www.ko-ok.jp

www.mopat.jp

平成28年（2016）3月28日

○脚の矯正には、押しピース(パッド)が必要です。



押しピース (=パッド) の使い方

○脚の方以外の方は使用しないでください。
押しピースの中心を膝回転中心に合わせてください。

スポンジの薄い方(第1段階)から
厚い方(第2、第3段階)へと進んでください。

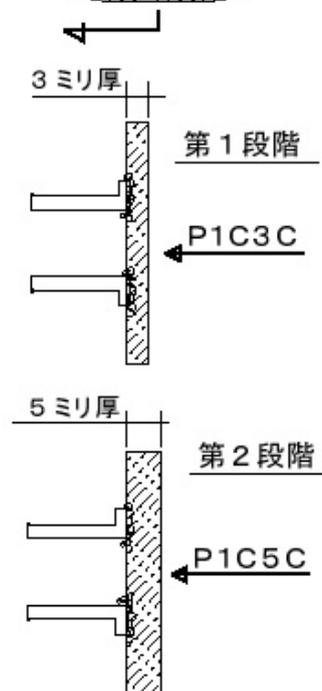
下図の第1段階から第3段階の使い方は
補強材(フレーム)を曲げていない通常の装具を
お使いの方が対象です。

FTA(膝外側角)で 3° 以下の○脚気味の方です。
 3° とは、膝から下の脚の長さが40cmの人が
立った姿勢で左右足のくるぶしを合わせた場合に
両膝間の隙間が、2.1cmの状態を言います。

註. これまでの第3段階までで、○脚の矯正はかなり進んでいます。
FTA(膝外側角)で 3° 以下の○脚気味の方は、
ほぼ矯正が完了していると思われます。

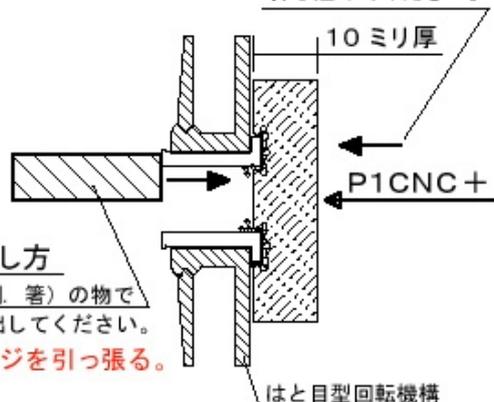
第4段階以降

FTA(膝外側角)で 3° 以上の○脚気味の方、および
補強材(フレーム)を曲げた装具をお使いの方で
(FTA(膝外側角)で 7° 以上の○脚気味の方)
○脚の矯正がかなり進んだ方が対象です。



取付け方

スポンジを掴み
人指指で
はと目回転機構の孔に
押し込んでください。



取り外し方

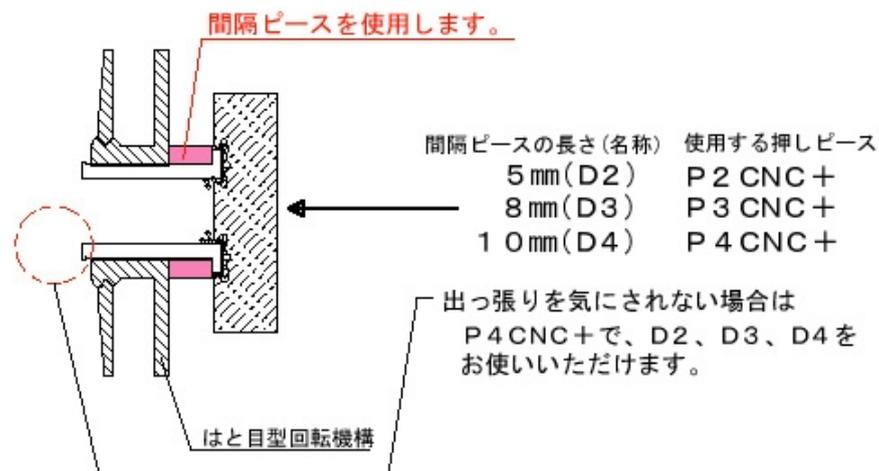
棒状(例. 箸)の物で
押し出してください。

× スポンジを引っ張る。

注意

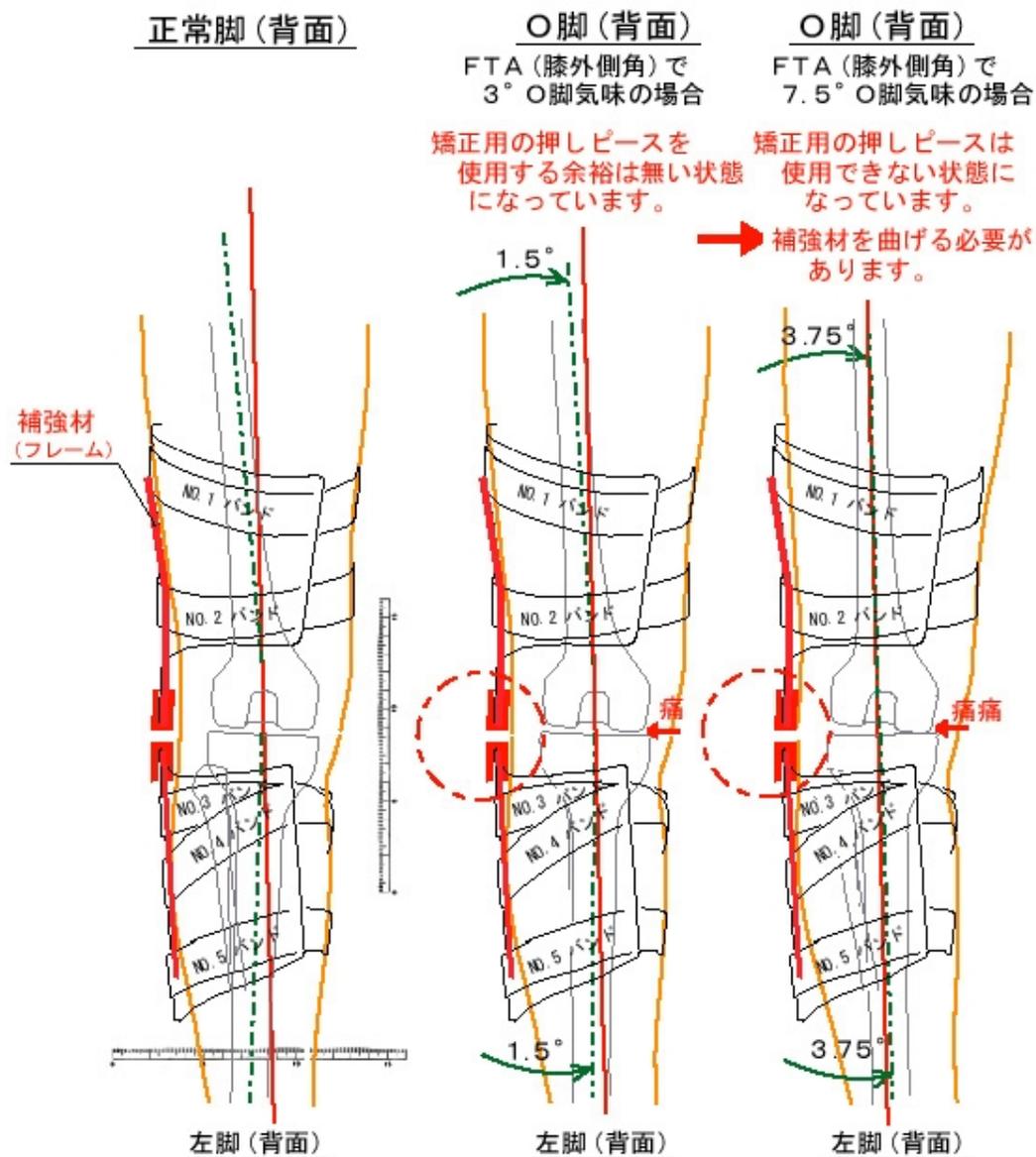
P1CNC+ はスポンジに溝を切り、嵌合して
接着剤で留めているので接着は強固ですが、
P1C3C、P1C5C および P1CNC は
接着剤だけで留めているので接着は脆弱です。

外れた場合は、ゴム・皮革用の接着剤
(例. ボンド: プレミアムソフト) で
再度接着してください。



○脚の度合が大きくなる(FTAで 7° 以上大きくなる)と 装具の補強材(フレーム)を曲げる必要性が生じます。

○脚の度合と補強材(フレーム)の曲げ加工の必要性



○脚の度合が大きくなると、装具の補強材(フレーム)を曲げる必要が出てきます。

膝の回転部分に「はと目型回転機構」が接触してしまい、肌を痛めるからです。

個人差はありますが、FTA(膝外側角)で、7° 前後大きくなった状態です。

FTA(膝外側角)で、7° 大きくなるとは、膝から下の脚の長さが 40 cm の場合、立った姿勢で左右足のくるぶしを合わせたときに両膝間にできる隙間が、4.9 cm 大きくなる状態をいいます。

補強材(フレーム)を曲げる場合は、型紙を作成願います。

型紙の採り方

下図例は、FTA(膝外側角)で7°O脚気味の場合

幅15cm・長さ38cm程度の段ボール紙を用意し、
一辺の中ほどに適当な円を描いて、円の中央に直線を書き、円を切り取ります。
円の中央に書いた直線を脛骨外側顆(脛骨上部の出っ張った部分)に当て、
その辺を、伸ばした脚の側面に当てながら、脚の外側に添うように切取ります。

